

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 マダイ

学名 *Pagrus major*

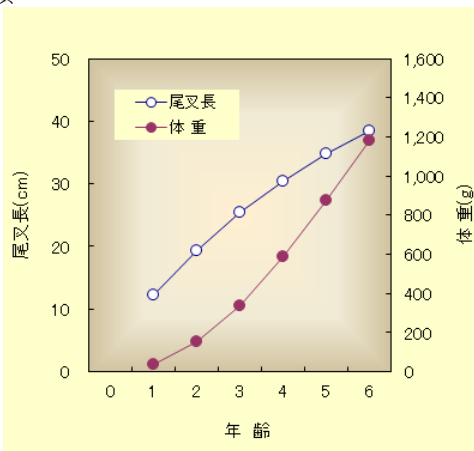
系群名 瀬戸内海中・西部系群

担当水研 瀬戸内海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 15～20年
成熟開始年齢: 3歳(50%)、4歳以上(100%)
産卵期・産卵場: 燧灘、備後芸予瀬戸、安芸灘では5月中旬～6月中旬、伊予灘では3～4月上旬
索餌期・索餌場: 体長約10cmの幼魚期までは産卵場に近い育成場、その後成長に伴い燧灘、備後芸予瀬戸、安芸灘、伊予灘、周防灘、豊後水道にも広がる
食性: 甲殻類、多毛類、昆虫類、魚類
捕食者: 稚幼魚期に魚食性魚類

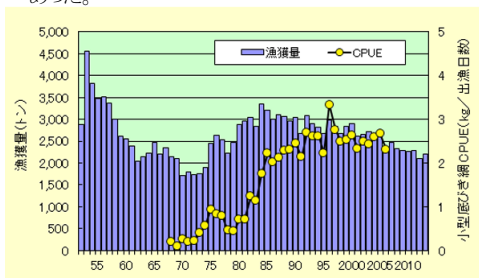


漁業の特徴

瀬戸内海中・西部海域は日本におけるマダイの種苗放流事業発祥の海域であり、種苗放流が盛んに行われている。瀬戸内海中・西部海域におけるマダイは主に小型底びき網、吾智網によって漁獲されている。瀬戸内海東部海域と比較して吾智網漁業の比率が高い。養殖も盛んに行われている。瀬戸内海漁業取締規則は毎年7月1日～9月30日の3カ月間、全長12cm以下のマダイの採捕を禁じている。

漁獲の動向

瀬戸内海中・西部系群のマダイ漁獲量は1953年の4,552トンから減少傾向となり、1970年に1,715トン(最低値)まで低下した。その後増加に転じ、1984年に3,351トンにまで回復したが、再び減少傾向となり、2013年には2,198トンであった。

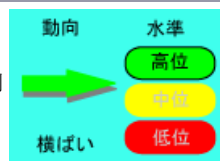


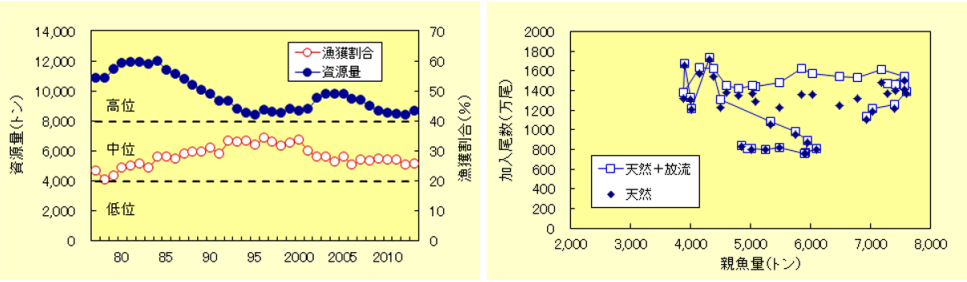
資源評価法

資源量推定はコホート解析で行った。プラスグループ(6歳以上)の資源尾数の推定は平松(1999)に従った。2013年の0～5歳魚のFは各年齢の過去5年間のFの平均値とした。2013年の6歳以上魚のFは5歳魚のFと等しくなるよう探索的に求めた。さらに、2013年0歳魚の資源尾数の補正を行った。2013年0歳魚のFについては、補正した資源尾数から再計算を行った。

資源状態

瀬戸内海中・西部系群のマダイ資源量は1984年に最高値となった。その後1995年まで減少し、1996～2001年に横ばい、2002年から増加、2006年から再び漸減傾向、2012年から再度増加傾向に転じた。2013年の資源量は8,625トンであった。過去37年間のコホート解析の資源量の推移から、2013年の資源水準は高位、過去5年の資源動向は横ばいと判断した。





管理方策

本系群の資源水準はこれまで高位で推移している。また、近年は漁獲量が減少傾向で推移しており、現状のFを維持しても資源の増加が見込まれることから、管理基準Fcurrentを採用し、Flimit = Fcurrentのときの漁獲量を ABClimit、Ftarget = Fcurrent × 0.8のときの漁獲量をABCtargetとした。種苗放流数と0歳時の添加効率は過去5年間(2008～2012年)の平均値(134万尾、0.039)と仮定した。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,353トン	Fcurrent	0.16	26%
ABCtarget	1,954トン	0.8Fcurrent	0.13	22%

- F値は1歳魚の値
- 漁獲割合＝ABC／資源量

資源評価のまとめ

- 資源量は2012年から増加に転じた
- 資源水準は高位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 現状のFを維持しても資源の増加が見込まれることから、管理基準にFcurrentを採用した

執筆者：山本圭介・阪地英男

資源評価は毎年更新されます。